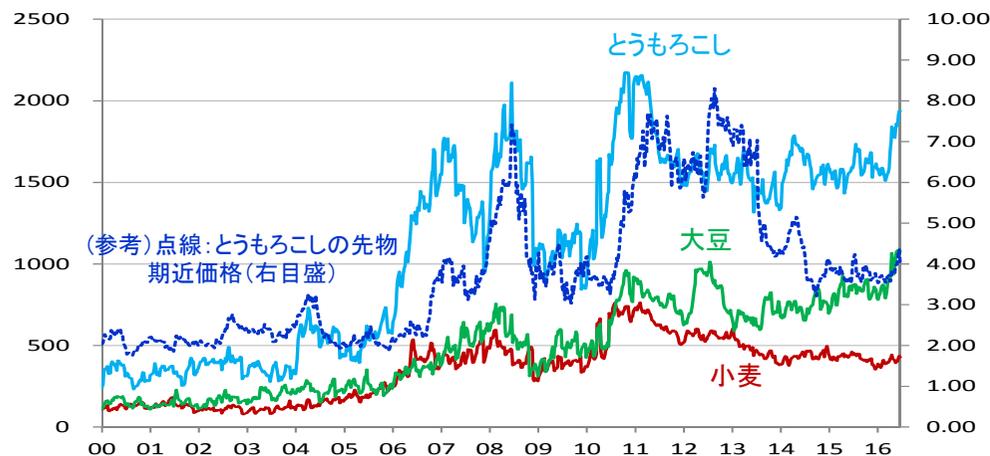


Ⅱ-2(参考) 穀物市場における投機家による先物取引の推移

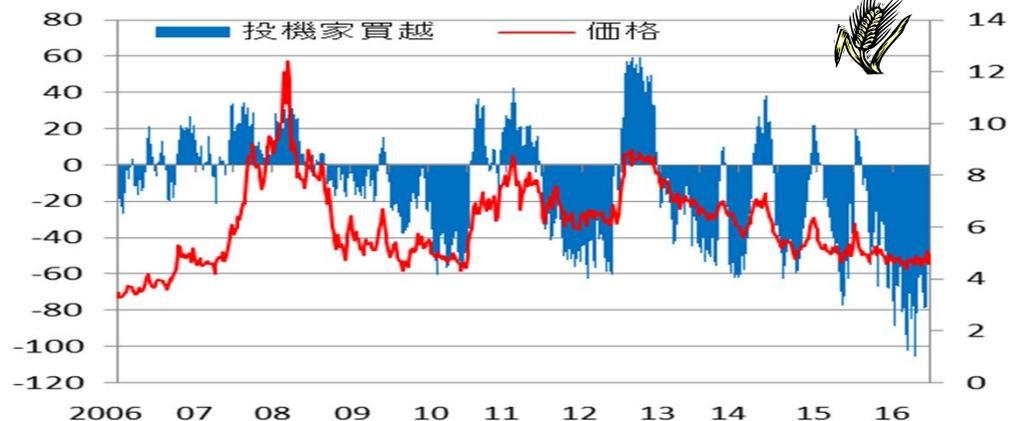
- シカゴ商品取引所(CBOT)における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移。投機家による直近の売買枚数は、小麦で売越し、とうもろこし及び大豆で買越しとなっている。

【図1】 投機家の穀物等の取引総枚数(注)の推移(CBOT)
(千枚) (ドル/ブッシェル)



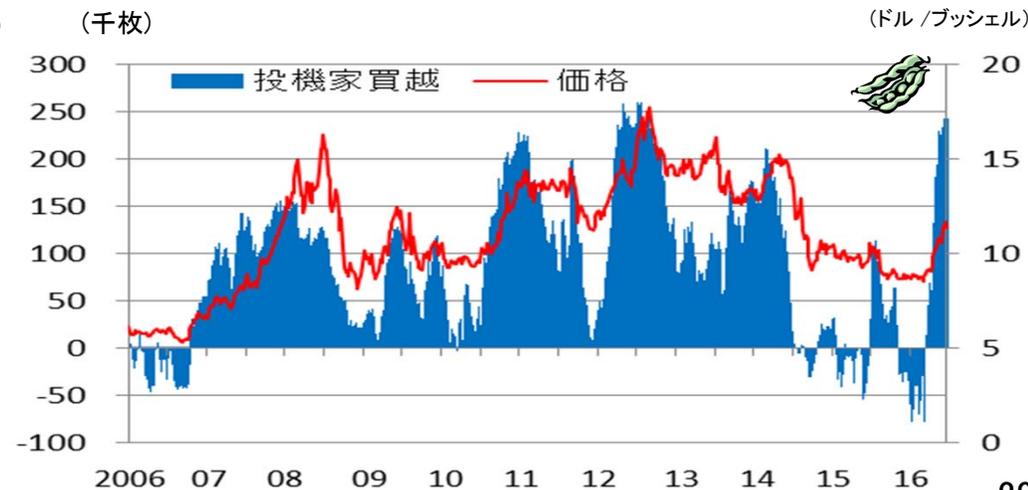
資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成
注：取引総枚数は、投機家(NonComm)による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図2】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移(小麦)
(千枚) (ドル/ブッシェル)



資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2016年6月第3週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

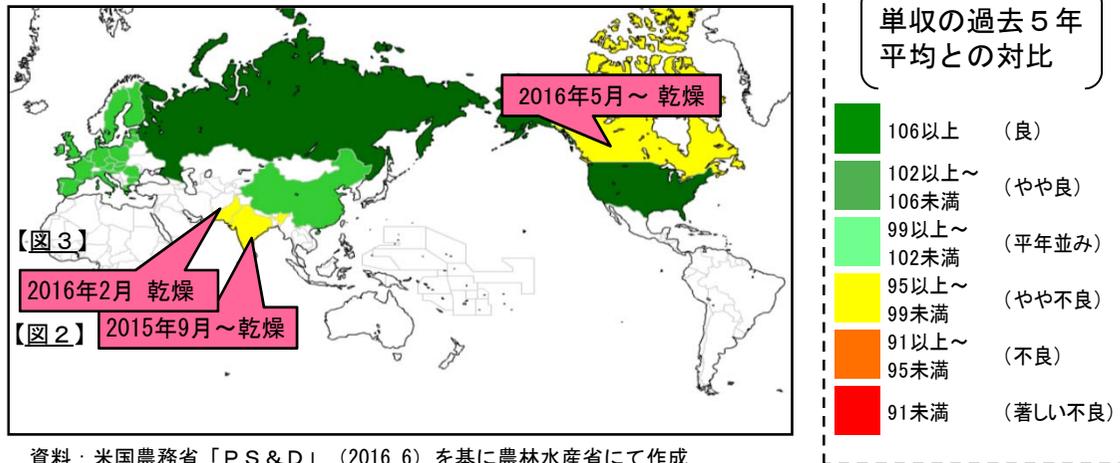
【図3】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移(とうもろこし) 【図4】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移(大豆)



Ⅱ-3-(1) 小麦の作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2016/17年度(2016年6月時点)における【小麦】の作柄について、世界全体ではやや良の見込み。主要生産国別で見ると、ロシア及び米国は良、EU及び中国はやや良、インド、カナダ及びパキстанはやや不良の見込み。なお、世界全体の生産量を見ると7億3,080万トンで、前年度に比べ作付面積が減少したことから340万トン(△0.5%)減少する見込み。

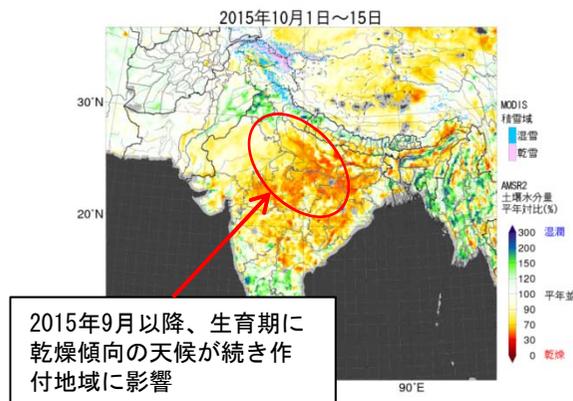
【図1】小麦の作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

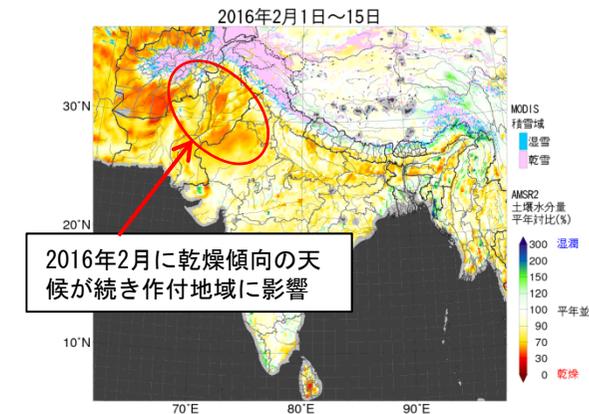
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6カ国を対象(2016年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2016/17年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

【図2】インドの乾燥状況(図1の参考)



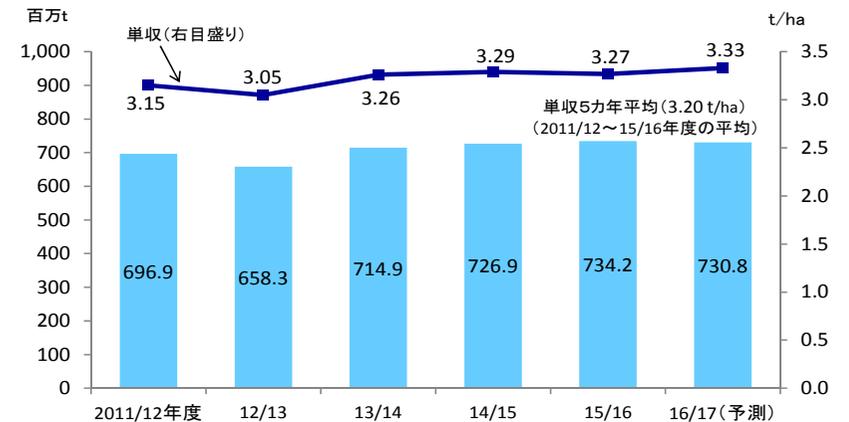
資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

【図3】パキстанの乾燥状況(図1の参考)



注：黄色~赤になるほど平年値(2002年7月~2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

【図4】世界の小麦の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

【参考】小麦生産主要国別予測生産量(2016/17年度)

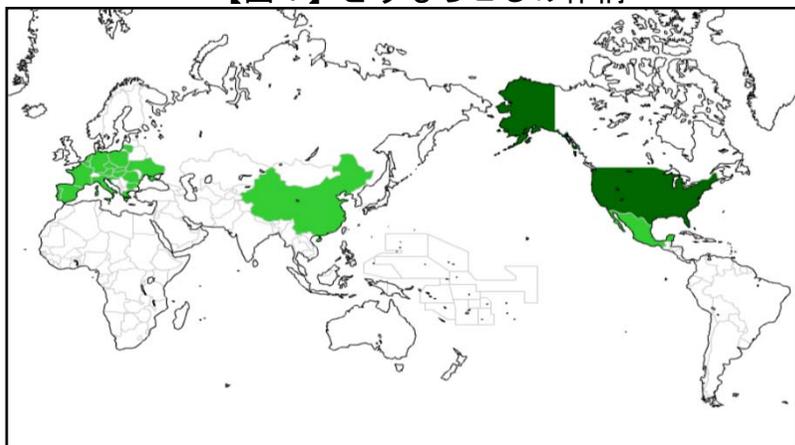
国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5か 年平均比 %
世界計	730.8	△ 0.5	100.0	3.33	104.1
EU	157.5	△ 1.6	21.6	5.87	105.0
中国	130.0	△ 0.1	17.8	5.35	104.8
インド	88.0	1.7	12.0	2.95	97.1
ロシア	64.0	4.8	8.8	2.46	110.2
米国	56.5	1.2	7.7	3.27	108.4
カナダ	28.5	3.3	3.9	3.02	98.1
パキстан	25.3	0.8	3.5	2.74	98.4

資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成
注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

II-3-(2) とうもろこしの作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2016/17年度(2016年6月時点)における【とうもろこし】の作柄について、世界全体では良の見込み。主要生産国別で見ると、米国は良、中国、EU、ウクライナ及びメキシコはやや良の見込み。なお、世界全体の生産量を見ると10億1,180万トンで、前年度に比べ4,540万トン(4.7%)増加する見込み。

【図1】とうもろこしの作柄



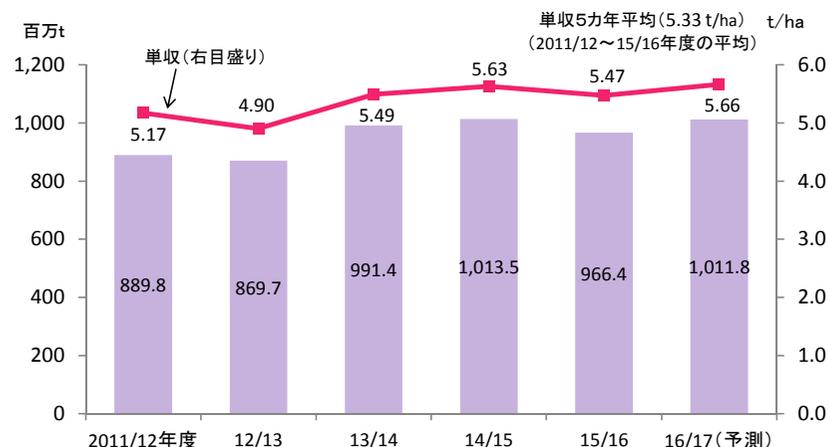
単収の過去5年平均との対比



資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7か国を対象(2016年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、当該年度のは種期に達していないブラジル及びアルゼンチンは色分け及び作柄の表示をしていない。また、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

【図2】世界のとうもろこしの生産量の推移



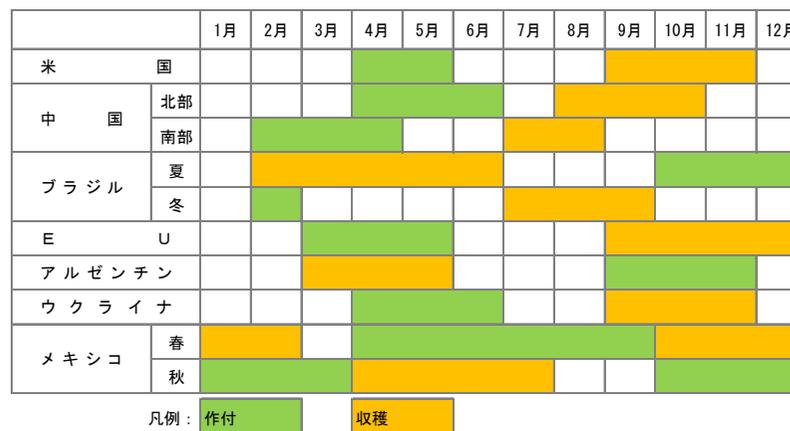
資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

【参考1】とうもろこし生産主要国別予測生産量(2016/17年度)

国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5か 年平均比 %
世界計	1,011.8	4.7	100.0	5.66	106.2
米国	366.5	6.1	36.2	10.54	109.4
中国	218.0	△ 2.9	21.5	6.06	103.3
ブラジル	82.0	5.8	8.1	5.19	102.7
EU	64.3	10.9	6.4	7.13	103.8
アルゼンチン	34.0	25.9	3.4	8.10	111.4
ウクライナ	26.0	11.4	2.6	6.19	105.0
メキシコ	24.2	△ 3.2	2.4	3.41	103.9

資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成
注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

【参考2】とうもろこしクロープカレンダー

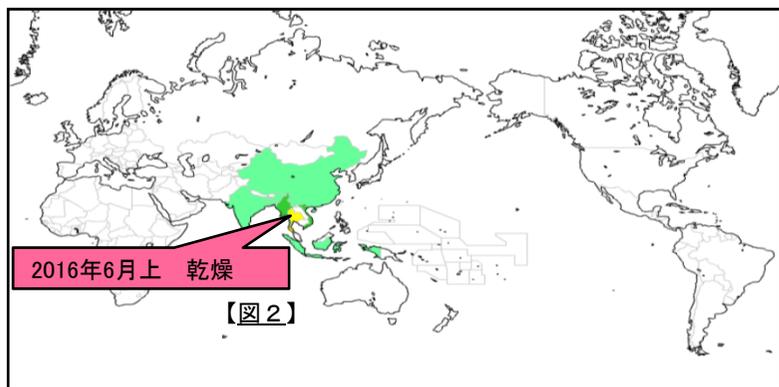


資料：米国農務省資料及びAMIS「Market Monitor」を基に農林水産省にて作成
注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

Ⅱ-3-(3) 米の作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2016/17年度(2016年6月時点)における【米】の作柄について、世界全体では平年並みの見込み。主要生産国別で見ると、ベトナム及びミャンマーはやや良、中国、インド、インドネシア及びバングラデシュは平年並み、タイはやや不良の見込み。なお、世界全体の生産量を見ると4億8,070万トンで、前年度に比べ980万トン(2.1%)増加する見込み。

【図1】米の作柄

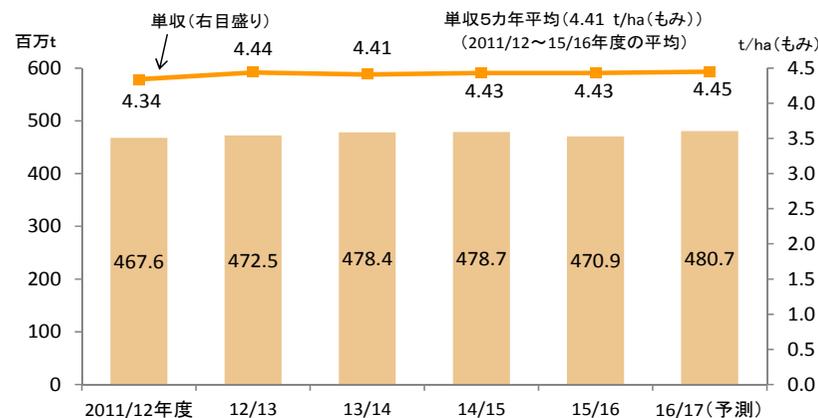


【図2】



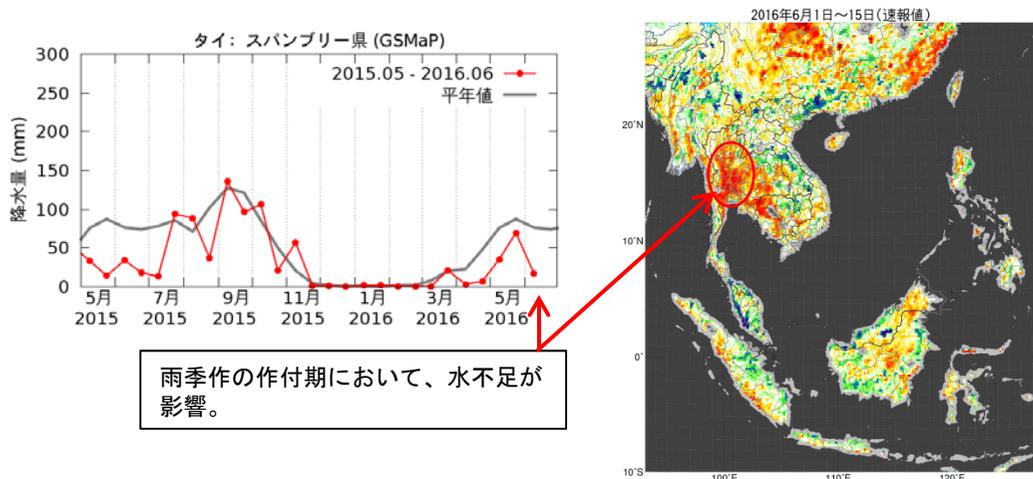
資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2016年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2016/17年度の単収(見込み)の比較により区分。

【図3】世界の米の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

【図2】タイの降水量(左図)・乾燥(右図、土壌水分量)状況(図1の参考)



雨季作の作付期において、水不足が影響。

注：黄色〜赤になるほど平年値(2002年7月~2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

【参考】米生産主要国別予測生産量(2016/17年度)

国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha(もみ)	対単収5か 年平均比 %
世界計	480.7	2.1	100.0	4.45	100.9
中国	146.5	0.5	30.5	6.90	101.8
インド	105.0	1.4	21.8	3.58	99.0
インドネシア	36.6	3.7	7.6	4.74	100.1
バングラデシュ	34.6	0.1	7.2	4.39	100.5
ベトナム	28.5	1.4	5.9	5.88	102.8
タイ	17.0	7.6	3.5	2.70	98.0
ミャンマー	12.5	2.5	2.6	2.79	104.4

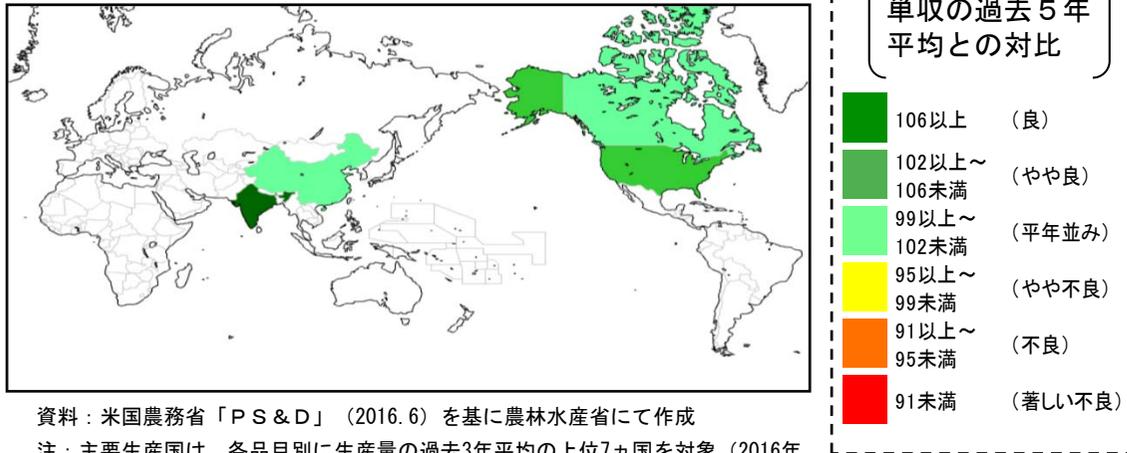
資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI)」農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

Ⅱ-3-(4) 大豆の作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2016/17年度(2016年6月時点)における【大豆】の作柄について、世界全体ではやや良の見込み。主要生産国別で見ると、インドは良、米国はやや良、中国及びカナダは平年並みの見込み。なお、世界全体の生産量を見ると3億2,370万トンで、前年度に比べ1,040万トン(3.3%)増加する見込み。

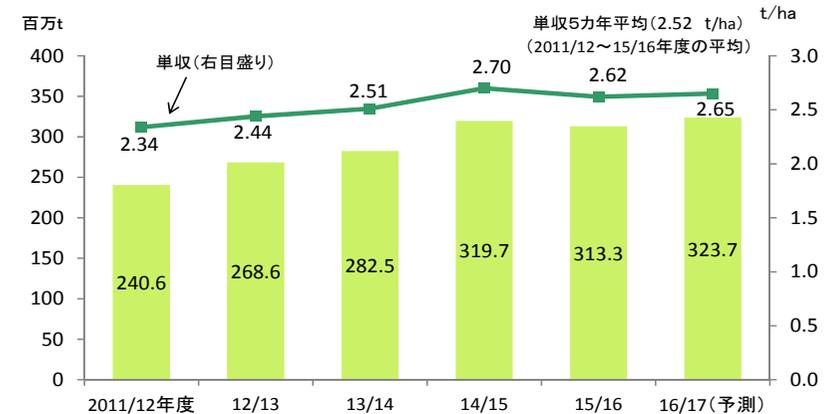
【図1】大豆の作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2016年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、当該年度のは種期に達していないブラジル、アルゼンチン及びパラグアイは色分け及び作柄の表示をしていない。

【図2】世界の大豆の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

【参考】大豆生産主要国別予測生産量(2016/17年度)

国名	生産量	対前年度増減率	生産量シェア	単収	対単収5か年平均比
世界計	百万トン 323.7	3.3%	100.0%	t/ha 2.65	% 105.2
米国	103.4	△ 3.3	31.9	3.14	105.4
ブラジル	103.0	6.2	31.8	3.01	104.1
アルゼンチン	57.0	0.9	17.6	2.93	107.5
中国	12.2	5.2	3.8	1.79	99.3
インド	11.7	58.5	3.6	0.98	107.7
パラグアイ	9.0	2.3	2.8	2.60	112.3
カナダ	6.1	△ 3.0	1.9	2.83	99.0

資料：米国農務省「P S & D」(2016.6)を基に農林水産省にて作成

※ 気象庁は、2016年6月10日付けのエルニーニョ監視速報(No. 285)で、「2014年夏に発生したエルニーニョ現象は、2016年春に終息したとみられる。今後、夏の間にはラニーニャ現象が発生し、秋にかけて続く可能性が高い。インド洋熱帯域の海面水温は基準値より高い値が続いており、今後秋にかけて次第に基準値に近づくと予測される。」と発表した。